



蚊に刺されて起こる感染症に注意！



蚊に刺されて起こる感染症は東南アジア、中南米、アフリカなどの熱帯地方に多く見られます。すぐに病院で診てもらわないと深刻になる病気もありますので蚊による感染症が多く発生している地域に行く場合は注意が必要です。

蚊に刺されたあと、高熱に加え以下の症状がある場合は急いで病院を受診しましょう。

(蚊が媒介する様々な病気の発生国については資料末尾をご参照ください)

- ・体中に斑点がでてかゆくなる、強い筋肉痛や関節痛を伴う ⇒ デング熱の可能性ががあります
- ・皮下出血、鼻血や歯茎からの出血、下血などの出血傾向がある ⇒ デング出血熱、黄熱病、マラリアの可能性ががあります
- ・悪寒冷汗や不規則な高熱を繰り返す ⇒ マラリアの可能性ががあります
- ・高熱にもかかわらず脈がゆっくりである ⇒ 黄熱病の可能性ががあります
- ・黄疸(肌が黄色くなる、しろ眼が黄色くなる)がでる ⇒ 黄熱病、マラリアの可能性ががあります
- ・高熱、頭痛とともに意識がぼんやりする、痙攣がおきる ⇒ マラリアや日本脳炎の可能性ががあります

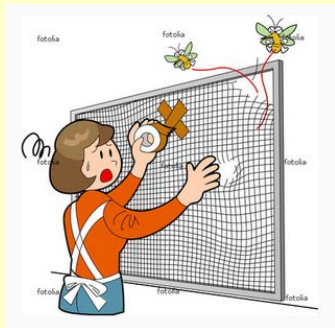
* マラリアは倦怠感や頭痛、下痢、吐き気、腰背部痛など風邪に似た症状を呈することもあります。

蚊に刺されないために

蚊に刺されないようにすることが一番大切です



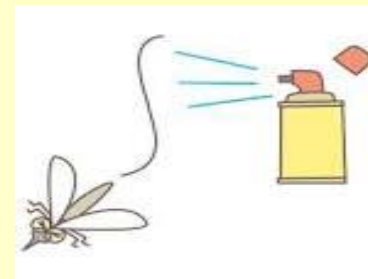
網戸は破れていませんか？



肌の露出に注意！長袖長ズボン、靴下を履きましょう。



虫除けDEETを使いましょう。
子供(特に乳児)へのDEET使用に関しては小児科医に相談して下さい。



ハマダラ蚊

マラリアを媒介。夜間に活動。
主に農村部に住んでいます。



ネッタイシマ蚊 ・ ヒトスジシマ蚊

デング熱・チクングニヤ熱を媒介。
日中に活動。
都市部にも住んでいます。



蚊取り線香も効果あり！



★予防可能な感染症もあります



あらかじめワクチンで予防可能な感染症もありますので流行地に行く場合はワクチンを接種しましょう。

ワクチンあり: 日本脳炎、黄熱病

ワクチンなし: マラリア、デング熱、チクングニア熱など



マラリアはワクチンはありませんが予防内服薬があります。予防内服薬を飲んでも100%予防できるわけではなく、副作用もありえますので、高度流行地で、医療機関をすぐに受診できないような僻地等に長期に行かれる場合は、トラベルクリニックや渡航外来などの専門医師とよくご相談の上使用を考慮してください。

★帰国後も気をつけておきたいこと 帰国してから発症する病気もあります



潜伏期間 デング熱 : 3~14日

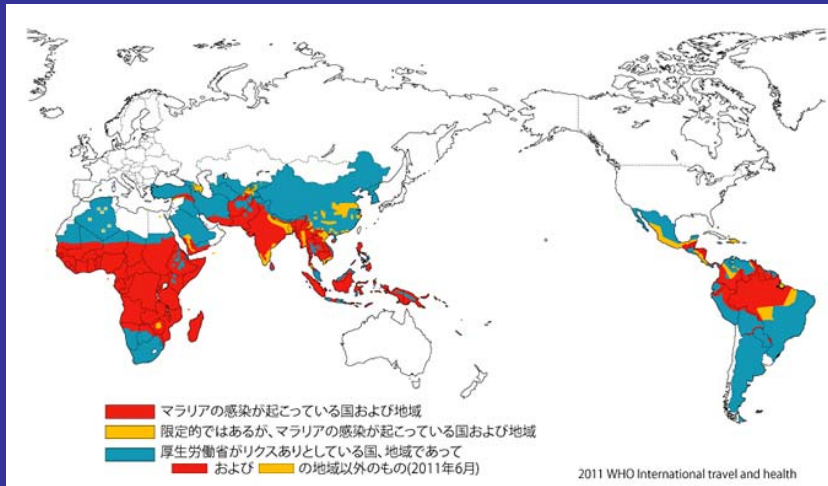
マラリア : 6~30日 (注: 数年間潜伏後に発症することあり)

マラリア流行地から帰国した人が、帰国後1年以内に熱を出した場合、まずマラリアを疑う必要があります。医療機関を受診する際には医師に申告してください。マラリア以外にも後日発症する病気はありますので、医療機関を受診した際には「いつ、どこの国に渡航したか」「どのような活動をしたか」について医師に申告して下さい。

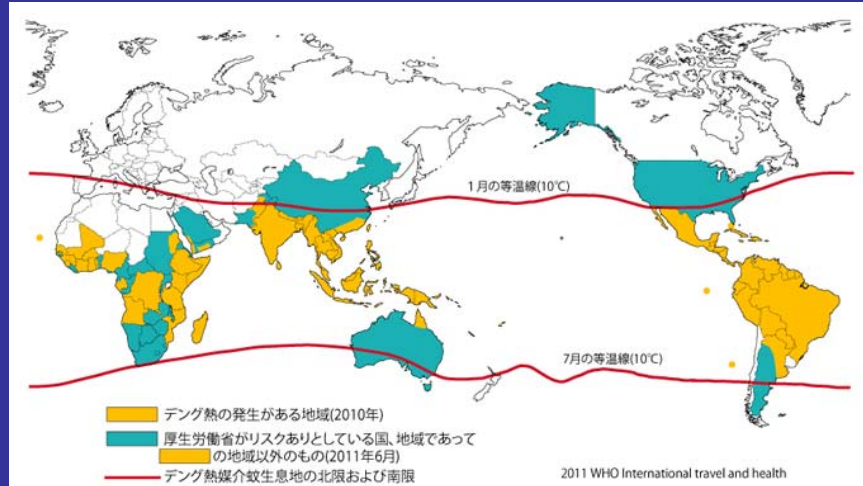
なお、それぞれの感染症の特徴については厚生労働省検疫所FORTHホームページ
<http://www.forth.go.jp/index.html> よりお役立ち情報⇒感染症情報をご覧ください。

参考：蚊による感染症の流行地域

マラリア流行地域



デング熱流行地域



厚生労働省検疫所FORTH ホームページより引用

厚生労働省検疫所FORTH ホームページより引用

日本脳炎流行地域



WHOホームページより引用

黄熱病流行地域



WHOホームページより引用